



# イーハトーブ

6月1日号

（現地に赴く事で真実を見極めよう）

地震大国日本。自然災害から目を背けることが出来ない。大地震による大津波から端を発して福島第一原発は未曾有の重大事故に至った。東京オリンピックの招致に向け、国は「原発はアンダーコントロールされている」と国内外に東日本大震災の復興のシンボルとして猛アピールしてきた。常磐線も全線開通し復興しているかのよう聞こえてくる。それは果たして復興しているのか。

今年4月、重大事故から11年経過した福島第一原発周辺に赴き現実を見てきた。1971年以降、過疎化が進む街に原発を誘致することで、街に莫大な金と雇用を生み出してきた。原子力と共生のため、子どもに至っては「原子力は安全」であると教育され、その象徴が「原子力明るい未来のエネルギー」の標語である。その標語を立案した当時小学生であった男性は、後に「原発がもたらしたのは明るい未来じゃなく、破滅でした」と後悔を語っている。

常磐線の被災した駅は改修され、立派な駅に様変わりしていた。そのうちのひとつ大野駅に立ち寄った。駅前は整備されているものの、誰一人現地の人を見かけることはなかった。持参した線量計も常に警報音が鳴り続けていた。道路はバリケードで制限され、人が移り住める環境まで程遠いことがわかる。福島第一原発周辺の沿道はピカピカの駅以外は震災前そのまま時間が止まっていた。

原子力事故は一度大事故を起こせば数十年は戻れない。史上最悪の被害を招いたチェルノブイリ原発事故から36年が経過したが、未だ廃炉作業の目処はたっていない。宮城と福島の復興の差は、原発が足かせとなっていてるのは明らかだ。原子力と人との共存はないことを証明している。常に犠牲になるのは労働者で、騙されていることを忘れてはならない。

社会の仕組みを作るのが政治。まもなく参議院議員選挙が始まる。我々労働者として、労働者の立場で行動できる候補者を国政に送り出さない限り、平和で安心した生活ができる社会は実現しない。政治への無関心は肯定しているのと同じである。私も子どもがいる。子どもが犠牲者にならない社会に向けて意思表示していく。（K・I）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。